

平成 30 年度 第 1 回船橋市取掛西貝塚調査検討委員会 会議資料

取掛西貝塚は、飯山満町 1 丁目・米ヶ崎町に所在する縄文時代早期前半（約 1 万年前）及び前期（約 6000 年前）の貝塚及び集落跡である（面積約 7 万 6 千 m²）。東京湾東岸部では最古の貝塚であり、かつ日本列島において人類が定住し始めた縄文時代初期の集落跡として、全国的に見ても希少かつ重要な遺跡であると注目されている。

本市では国指定史跡を目指し、未調査の畑地（約 55,000 m²）を対象として、遺跡の範囲・構造を把握するために、3 ヶ年の予定で確認調査を行う計画である。昨年度は東半部を対象として確認調査を実施した。今年度は西半部を対象として 6 月～9 月に確認調査を実施する予定である。

4 月から新たに埋蔵文化財保護係を増員し 2 班に分けて、史跡整備推進班と埋蔵文化財保護班を設置した。史跡整備推進班は地権者及び土地取得等にかかる事務、調査検討委員会事務局ほか、取掛西貝塚保存・整備の推進を図る。

<市の主要施策：取掛西貝塚の保存・整備 2,136 万円>

『平成 30 年度船橋市政執行方針』「(6) 市民に愛され、育まれるまち（抜粋）：全国的に見ても貴重な遺跡である取掛西貝塚につきましては、遺跡の学術調査を実施します。また、保存・整備計画を検討するため、「(仮称) 取掛西貝塚調査検討委員会」を設置するとともに、パンフレットを作成し、遺跡保存及び啓発を進めます。」

1. 平成 29 年度取掛西貝塚保存事業について（報告）

※P.3 全体スケジュール参照

別添資料参照（調査結果・別紙①）

2. 平成 30 年度取掛西貝塚保存事業の計画

①西半部の確認調査（6 月～9 月）

西半部面積＝約 30,000 m²　うち調査可能な面積＝約 15,000 m²を対象とする。

・今年の調査計画について（別紙②）

・自然科学分析の実施：貝層・炭化物等の試料採取・分析委託（年代測定、動植物遺存体分析等）。

※大学生発掘参加促進（昨年度は 30 名参加）

◎文化庁から「市民に向けてこの遺跡をひと言で表現できるキャッチフレーズを考えて下さい」

②自然環境調査（ボーリング）・分析→古環境を復元

・調査地点の候補選定（3 ヶ所）：平成 29 年 12 月、遠藤邦彦先生他と現地踏査

・地権者把握→交渉準備中

・調査実施（夏）・採取試料分析委託

③ 3D 地形測量（ドローンによる航空レーザー測量）・確認調査遺構等オルソ画像測量（委託実施）

④調査検討委員会の開催（遺跡の調査・保存・整備について検討）

⑤調査対象地の地権者関連

・西半部調査地の地権者 6 名の農地一時転用申請→許可後調査開始（6 月 11 日頃～）

・調査地周辺地権者への訪問・調査計画最終説明（6 月上旬）

⑥S 地点土地・建物取得予定（6 月議会で補正予算議決後、取得）

⑦普及事業

1) 刊行物

- ・取掛西貝塚パンフレット発行予定（国庫補助事業）
- ・平成 31 年度考古学協会配布用概報の作成（平成 30 年度原稿作成・平成 31 年 4 月印刷製本）
- ・『ふなばしの遺跡マップ』 1 万部印刷・小学 6 年生配布（H. 27～継続・国庫補助事業）

2) 講座・講演会・遺跡見学会等

- ・教員・市民対象の講座（4/13 小学校副読本研修会、5/11 海神公民館講座、5/30・2 月市民大学校講座、6/6 小中校初任者研修会、6/14 出前講座（金杉・高根）、8～9 月飯山満公民館講座、10 月中学校社会科担任研修会、12/7 校長会阿部先生講演等予定）
- ・講演会＋調査報告会 @ 勤労市民センター 3 月 17 日（日）午後予定
阿部先生・市職員、他に講師 1・2 名程度予定
- ・遺跡見学会（一般向け、専門家向け、地権者向け）
- ・発掘体験：芝山西小学校 6 年生予定

3) 遺跡説明板の設置

約 9 基設置予定（H. 27～継続・国庫補助事業、27 基設置済）

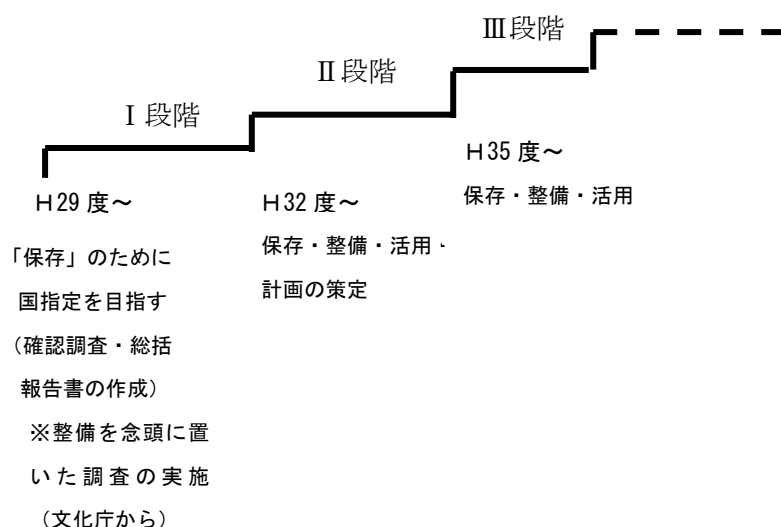
4) 広報活動

『広報ふなばし』・各新聞等、FB による情報発信他 ※特に新聞報道

⑧専門職配置と体制：考古職 7 名→14 名（平成 27・28 年度）

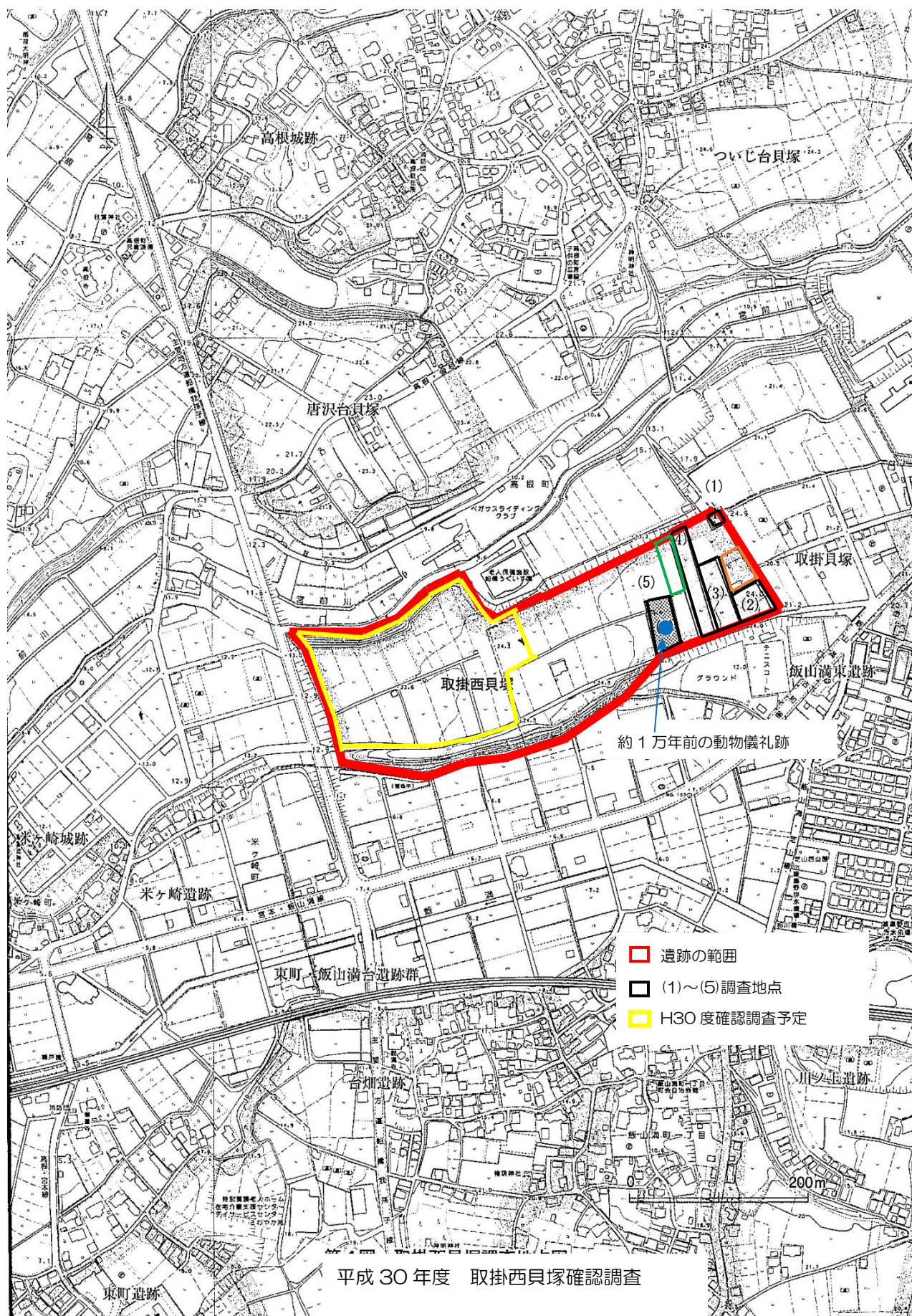
平成 30 年度：新規採用 1 名、飛ノ台博非常勤学芸員 1 名配置

◎事業推進のイメージ



3. 取掛西貝塚保存事業 スケジュール

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33～	備考
分布調査	5 万㎡						終了
確認調査		①東半部 6 月 12 日 ～ 9 月 29 日（終了）	②西半部	③（①② の残部） ＋補足調 査			② 1 名を除き対象地 の地権者はほぼ内 諾。但し期間限定の 畑あり。
地形測量		●	● 3 D 地 形 測 量 ・ 空 撮	● 空撮			
自然環境調査			— — — — — ➔				
分析・整理作業	— — — — — ➔						
総括報告書刊行					●12 月提 出→1 月 申請	国指定 6 月答申→ 10 月告示	国指定に向けて
普及活動		11 月 報 告 講 演 会 , 1 月 考古学講 座、発掘 体験等実 施	3 月 17 日 講演会実 施予定 — — — — — ➔				
遺跡見学会		●	●	●			
地権者交渉・説明		●	●	●			
大学との学術連携			— — — — — ➔				
調査検討委員会			● — — — — ➔				
その他	F 地 点 市 史跡指定	市単で F 地 点購入。 『ふなばし の遺跡』刊 行	市単で S 地 点購入予定 （市史跡指 定予定）。取 掛西貝塚パ ンフレット 発行	取掛西貝塚 概報発行 （協会で配 布予定）			



4. 今後の委員会の運営について

① 平成 30 年度 スケジュール（案）

開催日	項目（会場）	内 容
平成 30 年 6 月 4 日（月）	第 1 回 調査検討委員会 （船橋市役所 7 階 705 会議室）	(1) 平成 29 年度取掛西貝塚保存事業 の報告について (2) 平成 30 年度取掛西貝塚保存事業 の計画について
6 月 11 日（月）	取掛西貝塚（7）調査開始	掘削は 18 日ごろからの予定
8 月上旬	第 2 回 調査検討委員会 （発掘調査現場）	
8～9 月ごろ	3D 地形測量 自然環境調査（ボーリング）	
9 月末	取掛西貝塚（7）調査終了	
11 月前半	第 3 回 調査検討委員会 （船橋市役所）	平成 30 年度確認調査の成果について
平成 31 年 2 月	第 4 回 調査検討委員会 （船橋市役所）	平成 31 年度確認調査の計画について
平成 31 年 3 月 17 日（日）	平成 30 年度 取掛西貝塚 調査報告会 （船橋市勤労市民センター）	

※取掛西貝塚（7）確認調査 6/11～9/30 の予定

※調査期間中に小学校の発掘体験や現地説明会など計画中

② 今後の委員会の運営について

- ・専門部会の設置

5. 取掛西貝塚を核とした保存・活用について

活用構想（案） （→今後、要検討）

- ・ ●核（コア）＝取掛西貝塚・・・取掛西貝塚をコアとし、縄文～現代までの「海とふなばし」の関係を通史的にとらえる（「東京湾」がキーワード）（総合的な地域史の中で取掛西貝塚を捉える）
- ・ 縄文時代貝塚研究と当時の社会復元・・・海と船橋のかかわりとその歴史
- ・ 東京湾の形成を含めた当時の古環境復元・・・地形・地理からみた船橋の成り立ち
- ・ 文化財保護・まちづくり・市アピール（観光）に貢献する
- ・ キャッチ（案）「海とふなばし」→「東京湾」にかかる資料集成の実施

※自然環境（ボーリングデータ等）、絵図、地図、船橋大神宮等寺社、神楽など伝統行事、文学等々・・・広く含める

・資料の活用

- 今後、縄文時代貝塚の活用法を考える（海老ヶ作貝塚整理中。再整理終了・金堀台貝塚、飛ノ台貝塚（県指定案件）等々）
- 既に報告された遺跡・遺物の活用法を考える。→これらの保存・管理をどうするのか、再利用を考える発想でやる。

総括報告書（案） （→今後、項目を検討）

- ・ 経緯
- ・ 事実報告：（１）～（５）地点調査、平成 29～31 年度確認調査、平成 28 年度分布調査

テーマ（仮）「縄文早期～前期の自然の景観と人の活動」

- ・ 考古学
 - ・ 早期～前期を中心とした遺物論（土器、石器、骨角器他）
 - ・ 早期～前期を中心とした遺構論（集落・貝塚等）
- ・ 自然科学（人類学、動物考古学、植物考古学、古環境等）
- ・ 自然環境復元：植生、東京湾形成・海進・海退、地形、気候等
 - ※ 3D 測量・空撮実施→将来は自然環境を含めたジオラマを作成
- ・ 市内縄文時代遺跡・貝塚の集成と概要
- ・ 動物儀礼跡考察・復元・イラスト（ジオラマ）作成 ※取掛西貝塚（５）地点貝層はぎとり（終了）
- ・ ツノガイ産地・加工の考察 等々

保存・整備事業

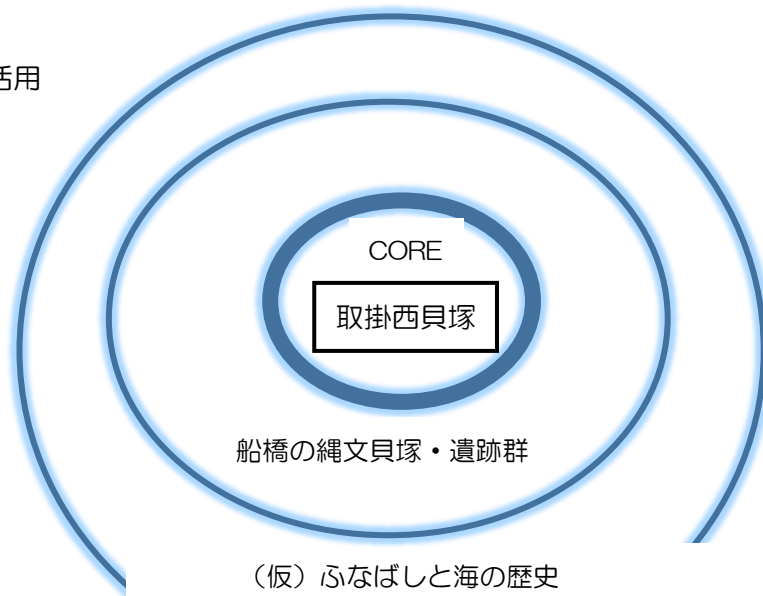
確認調査は保存整備を念頭に置き、実施するが、本格的な検討は第２段階からか。

※ 3ヶ年目で早期前半竪穴住居跡の発掘調査？→住居構造の解明・復元研究等を実施か

※集落復元、貝層観覧施設、展示施設等の検討

取掛西貝塚を核とした保存・活用
のコンセプト（案）

海（東京湾）と船橋
（船橋都市形成史）



●縄文時代

貝塚文化の成立

取掛西貝塚

飛ノ台貝塚・・・

海老ヶ作貝塚・・・

●古代～中世

船橋御厨

意富比神社（船橋大神宮）

湊の成立

海上交通の発展・物流

陸海交通の要衝（東海道と東京湾）

古代遺跡群・牧

中世集落・城

塩場（戦国時代）等々

●近世

船橋御殿

街道（佐倉道・御成街道他）と船橋宿の成立

御菜浦、五大力船、

元禄地震、三番瀬

湊町・漁師町・商・

農・塩田等々

●近代～

近世以前の交通の要衝を継承した鉄道網の発達・都市としての発展、埋め立て等々

●海に関わる文化財・寺社・

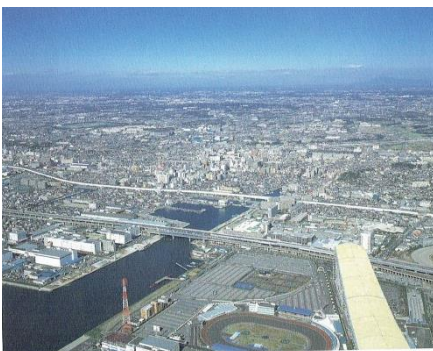
史資料など

神楽、船橋大神宮

七年祭り（二宮神社）

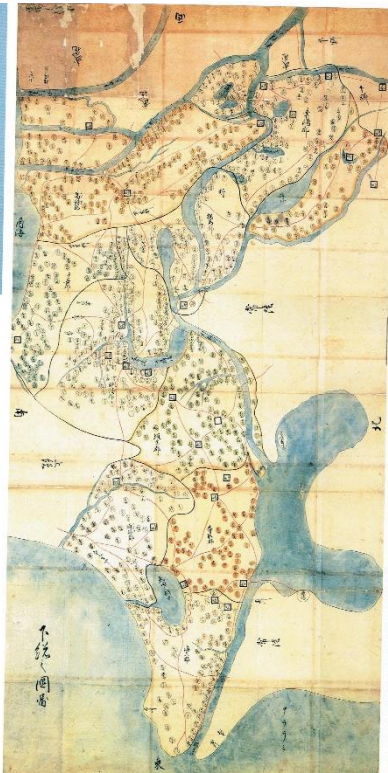
「船橋津」北条氏朱印状

近世初頭『下総国図』等々



17. 現在の海老川河口の様子 船橋市広報課写真提供
海老川河口付近は、江戸時代には成田街道宿（兼立場）となり、商業・漁業・物資集散の港湾都市としてさらに発展しました。現在は人工港となり、商業ビルが密集、埋立地には工場地帯、商業施設が多くあります。

戦国時代末期の様子をあらわす絵図



14. 下総之国図
（江戸時代初期）
上下198cm
船橋市西図書館蔵
最近の研究では、17世紀初頭の江戸（船橋）に武蔵国とある（江戸幕府成立）とされている。1620年代に開闢する開港場の町（船橋）が記される。近世初期の河川改修のあとが見られない。戦国時代末期の『下総之国図』は江戸時代初期の1600年代には失われた地名です。またこの絵図には慶長19年（1644年）頃に建設された船橋御殿がまだ描かれていません。

◎全体計画の枠組み・コンセプト（案）

